

教育長室からのお知らせ No. 90(令和 5 年 1 月)



教育長 田中 庸寛

明けましておめでとうございます。季節性インフルエンザの流行シーズンとなる中、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増加傾向にありますので、同時流行に備え、引き続き基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

今月は、スキースクールを予定している小学校があります。楽しみながら自然に触れ、環境問題やSDGsの学習につなげるなど、体験を生かした学習を期待します。市川市出身の写真家、星野道夫さんは、「子どものころに見た風景が、ずっと心の中に残ることがある。いつか大人になり、さまざまな人生の岐路に立った時、人の言葉ではなく、いつか見た風景に励まされたり、勇気を与えられたりすることがきっとある。」と著書の中でおっしゃっています。スキースクールで見た雪景色がその一つになるかもしれません。宿泊学習に限らず、日常生活の中でも、密度の濃い思い出をつくり、たくさんの素晴らしい風景を子どもたちとともに見られる1年にしていきたいと思います。

また、子どもたちには、一人一人が本当にやりたいことを見つけ、そこに向かって羽ばたいてほしいと思っています。教職員は、学校職員としてはもちろん、一人の大人として、力添えをできるよう、子どもと関わる時間をしっかりと確保し、積極的にコミュニケーションを取り、子どもたちを支えていけるように努めてまいります。

先日、文部科学省は、学級担任等が回答した内容から、公立の小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒の割合が、推定値 8.8%であったという調査結果を公表しました。また、このうち、「校内委員会において、現在、特別な教育的支援が必要と判断されている」割合は、3割程度であることも明らかになりました。子どもの実態を的確に捉え、適切な指導・支援を行うためには、担任一人の情報では不十分なこともありますし、子どもの様子を多角的、総合的に捉えるためにも、複数の教職員が関わる必要があります。各園・学校では特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会などを開催して、校内支援体制が組まれています。教育委員会では、各園や学校の要請を受け、巡回指導や特別支援教育スーパーバイザーの派遣を行っています。また、須和田の丘支援学校では、地域支援として、特別支援教育コーディネーターが園・学校を訪問し、園児、児童生徒への具体的な支援方法について担任の先生方と一緒に考えています。各園・学校においては、校内体制を機能させるとともに、校外の関係者と連携することにより、子どもや保護者の思い、願いに寄り添い、支援につなげてまいります。

11月、新浜幼稚園において公開研究会が行われました。研究主題は「多文化 異年齢 学級の中で育ち合う幼児の育成 ～指導計画の見直しと教材開発をとおして～」です。外国籍の方が多い立地と、単学級という特色を捉えた研究でした。成果としては、外国籍幼児への配慮と異年齢の関わりを指導計画に位置付けたことにより、指導の手立てがより明確になったこと、また、単学級の保育室を隣にして環境を整えたことにより、年少児が年長児の様子を自然に目にし、憧れがより強まったことなどが挙げられました。幼児期は、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えを養うことが期待されています。今後の幼児教育、特別支援教育の推進に向けて、本研究の成果を広く共有してまいります。

社会の多様化が進んでいる中、幼稚園や学校は多様な子どもが通うところである、また、そこで働く教職員も多様であるということをしかりと前提とし、多様な人々がともに力を発揮できる環境になっているか、偏っていないか、という視点を常に持ち、誰一人取り残すことなく、一人ひとりに応じた教育を実現できるよう、教職員とともに励んでいきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。